

8月25日 川崎市麻生区 場所：麻生市民館

質問1 SMの安心、安全を説明されたが、住民には専門すぎて判らない。もっと一般住民に判るようにかみ砕いた説明会を設置してほしい。

回答1 掘削前に工事説明会をする。オープンハウス（駅の改札近くなどの公共の場で、資料を展示して、通行人が自由に質問できる説明会）でも順次説明する。

質問2 もし工事が事故を起こしたら中止するのか。その担保を約束してほしい。

回答2 もし事故あれば、原因究明行い、まず工事を止める。

質問3 NEXCOの外環道の陥没事故は特殊な地盤と言われるが、NEXCOも地盤を調べた結果、工事をやったと思うが、住民は事前説明で納得したのか。そもそも、特殊地盤の定義が判らない。

（注：NEXCOは事前に地盤を調べていない）

回答3 特殊地盤とは、砂時計のように、上から下までが砂で構成され、砂が落ちやすい地盤。川崎市内ではそういう地盤はない。

質問4 私の家は東百合丘非常口から西に690mでルート直上にある。

外環の（事故原因究明）報告書は、トンネル工事全体を俯瞰していない。（陥没現場周辺の）300mの範囲だけしか調べていない。ボーリングもしていない。

北側の190mは陥没と空洞ができて詳しく調べていて、特殊な地盤かもしれないが、もう少し南のボーリングはN値（地盤の強度を表す数字。50あれば強固な地盤）は50から2に下がっている。SMは岩盤に影響を与える工法だ。

SMだけでは安全に掘れたか確認できない。調布だって、陥没したのは掘削した翌月のことだ。

ボーリングをして、N値を見ることもコアの亀裂を見ることも必要だ。そのボーリングの値がないと、もし地震が起きて家が傾いても、我々事前にデータ持っていないので、何も言えなくなる。

そういうデータを事前に見せてほしい。

これまでにJR東海が実施したボーリングのコア（東百合丘非常口から片平非常口までの区間）も見せてほしい

回答4 外環報告書は、我々も読んで勉強している。今後の施行でも勉強しながら進める。

（質問者「で、回答はいつ、どういう形でいただける？ うやむやにしないで！」）

えーと…。この場ではなかなか即答できません。

質問5 （リニアルート上でJR東海が行ったボーリングのほかに）既存のボーリングデータがあるとのことだが、それを開示してほしい。資料を見ると、リニアルートの直上ではボーリングはほとんど行われていない。これでは安心できない。データを揃えてからの工事であるべきだ。

回答5 大深度工事の使用許可を申請するときボーリングは行っている。そのデータはある。地震が起きた（場合に備え）もっとボーリング調査をしたほうがいいとのご意見もあり、我々としても今後の対応について勉強をさせていただく。

（会場から：勉強って何だよ！）

あ、すみません、補足いたします。地震があった場合に備えてのボーリング調査が必要ではないかとのことですが、今回の地質調査については、JR東海が直接ボーリングをやりました。それに加え、他の公共機関がやったボーリングの情報を収集した。既存文献も数多く調査した。で、今回の地質データを作成した。こ

れについては、首都圏ではより多くそういった…

(会場から：とにかくデータ見せて！)

あ、わかりました。大深度使用申請するときデータ出しているんで、地質を確認するための柱状図はあります。今回、土砂のサンプリング調査を…

(質問者：そんなの聞いていないよ！ 時間稼ぎするな！ ちゃんと私の質問に答えなさい。他にも質問したい人沢山いるんだから。会場拍手)

直接ですね、我々はサンプリング装置を…

(そんなのわかってんだよ！)(直上のボーリングやってないよ！)

繰り返しになりますが、JR が直接やったボーリングのほか、そのほかのボーリングをやっているということでございます。

質問6 片平2丁目のマンションに住んでいます。リニアのトンネルから40m以内。リニアのルートに、マンションの3分の1がかかる。

家屋調査について尋ねたい。幅40メートルで家屋調査というが、その範囲の全世帯にチラシを配布して、そのなかで協力すると言った方には調査するのか、それともJRがサンプリングするのか？ 調査対象の洗い出しはどうする？

あと、マンションはどうする？ 理事会(管理組合)に連絡する？ 各戸に？ どんなやり方？

回答6 家屋調査についてはルートの両幅40メートルの範囲が対象。一戸建てには全戸案内を出す。マンションの場合は、まず、管理組合なのか家主なのか、どういうやり方かを相談させていただく。マンションは個別に相談させていただきたい。(違う答えが続いている)

家屋調査の目的は、万一、建物が損傷した時、速やかに検討を対応するため、トンネルを掘る前の現状の確認する。

家屋調査を希望する世帯にはすべて行う。

質問7 説明会をまたするということだが、規模、回数は？

回答7 説明会は、オープンハウスを小さい単位で設定する。それは自治会や町内会と相談してやりたい。

質問8 東百合丘非常口の近くに住む。家屋調査の範囲は、トンネルの両幅に40m。つまり40m x 2とあるが、それを外れたら影響はないとの見解？ 何か問題起きたら、あなたのところは40m以内じゃないから関係ないというのか？ それでも影響出た人には、必要なら話を聞くのか？

回答8 40m範囲を外れた場合ですが、まず40mとの根拠は、トンネル技術協会の指針で。

40mを外れたら、家屋調査は考えていないが、その場合でも、工事施工で損害が発生したら、補償を適正に考えたい。

質問9 安心安全の取り組みのなかで、24時間掘ると思うが、騒音についてはどれくらいを予想しているのか？ 高齢者はいつまでも耳に残る。

回答9 環境影響評価で騒音は出ないとの予測をしている。ただ、振動は、抑えるが、仮に地表に来た時に、建物の躯体に響いて音が出ることもある。その振動を抑えるのが第一。それでも振動や騒音あれば我々に連絡をいただきたい。対応したい。

振動については、地表に振動計を置いて測定する。その結果もその地区の皆さんにお伝えする。

(別の社員) 補足します。振動はとても小さい。外環では地表で30~40デシベルだった。だが、中にはお気に召される方はいる。そのときは事情を聴く。SM発進のときに実験して騒音や振動を図り、できる

だけそれを減らすことに努める。

司会者 予定の終了時刻が迫っております。あと二人で終了します。

(会場から：全員やらせろよ！ 《6-7人が挙手》)

質問10 ルート上に住む。小さい子どももいる。振動はあると考えていいのか？

回答10 強固な地盤を掘削するので、基本的に振動を感じることはないと考えている。何かあったときの対応ですが、まずは気軽に連絡を。対応を相談させてもらう。

質問11 損害あっても、家屋調査を受けられない人は補償されない？ もし損害あった場合を考えると、協力があつたほうがいいのか？

回答11 事前調査をやらなかった場合でも、SMで損害出れば、事前にやった人と差をつけることはない。補足します。今回は、ルートのも幅40m x 2 + 14m (トンネルの直径) = 94mで家屋調査をするが、事前にやった場合は早く対応ができる。元々の状態と損害の状態が判るので、40mの範囲外でも確認して対応したい。

質問12 家屋調査について。トンネルの上部の土地がどう変化するのか気になる。事前にボーリングしてこういう状態だねとデータで調べておかねば。工事終わって、地面に影響出ても、因果関係を知ろうしても証明できない。土地の状態も事前に調べるべき。

回答12 地域の地盤の状態については、事前ボーリングについて、既存の文献、公開ボーリングデータで地質の縦断図を作成した。川崎市内については、市の川崎市環境地質図調査報告書がある。国交省の報告書も参考にした。地層の重なり方を把握しているところでございます。

そういった既存の地質の重なり方と、我々のボーリングデータと既存のボーリングデータを掘削する土地の縦断図を作成。

補足します。地表面の(高低の)変異を図ったほうがいいのではないかとということだが、リニアルートと道路との交差部で測定する。

補足します。川崎市麻生区は、100万年前は海だったところでございます。海に徐々に粘土が溜まり、固い地質になったのをボーリングで確認している。

外環のような砂のような地層はない。外環は特殊な地盤で陥没した。

(会場から：それだけが原因じゃないから、ちゃんと勉強しなさい！)

(中略) 施工管理を強化する。こういう説明をオープンハウスなどでよりわかりやすく説明させていただきたい。

以上でございます。

司会者 以上で質疑を終了させていただきます。